

脳卒中センター

● スタッフ（平成28年10月1日現在）

センター長 河野 道宏（脳神経外科主任教授）
副センター長 相澤 仁志（神経内科主任教授）
副センター長 羽生 春夫（高齢診療科主任教授）

医師数 20名

● 特徴・診療対象疾患

脳卒中は突然に起こる脳血管障害の総称で、虚血性病変として脳梗塞（脳血栓、脳塞栓）、一過性脳虚血発作、出血性病変として脳出血、くも膜下出血があります。本邦では年間約27万人が脳卒中を発症し、年間約12万人が脳卒中後に死亡している。

当センターでは、救命救急センター、脳神経外科、神経内科、高齢診療科が密な連携のもとに、あらゆるタイプの脳卒中を24時間体制で診療し、高度で迅速な対応が必要な超急性期・急性期の治療を提供している。

● 診療体制と実績

1) 診療体制

3次対応が必要な重症の場合は、救命救急センターでの診療を行い、それ以外は脳神経外科、神経内科、高齢診療科での診療を行っている。毎朝の脳神経外科、神経内科、高齢診療科でのカンファレンス、さらに、救命救急センター、放射線科、事務を含めた、週一回の合同カンファレンスを行い、脳卒中患者の情報を共有し総合的に治療を行っている。

2) 診療実績（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

入院患者数

225名 内訳 脳梗塞（含TIA）：136名
脳出血：52名
くも膜下出血：33名
その他：4名

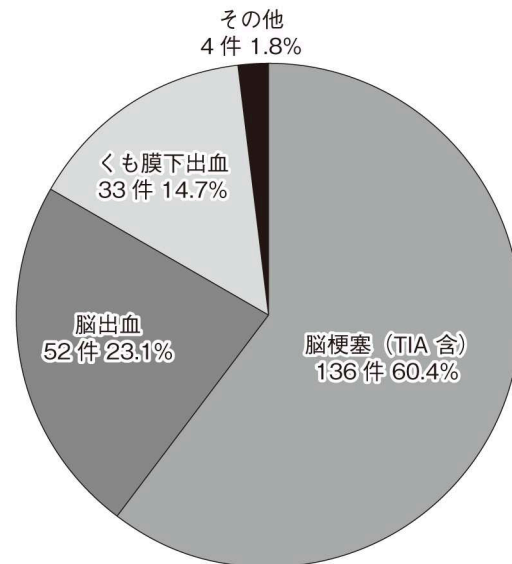


図1 平成28年度入院患者疾患別割合